

富士宮市文化財年報

第8号

平成29年度



人穴富士講遺跡 碑塔群

2019
富士宮市教育委員会

富士宮市文化財年報

第8号

平成29年度

2019
富士宮市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成 29 年度に実施した富士宮市内における文化財保護事業の概要をまとめたものである。
- 2 文化財保護事業は、文化財保存・管理事業、埋蔵文化財事業、郷土資料館事業、歩く博物館事業、その他の事業に分類した。
- 3 本書の執筆・編集は、富士宮市教育委員会教育部文化課及び埋蔵文化財センターの各担当（平成 30 年度）が行った。

4 平成 29 年度文化財関係組織

教 育 長	池谷 眞徳	
教 育 部 長	佐野 宏幸	
文化課長兼埋蔵文化財センター所長	鈴木 祥元	
主 幹 兼 学 術 文 化 財 係 長	渡井 英誉	
同 学 芸 員	保竹 貴幸	（文化財管理担当）
埋蔵文化財センター学芸員	永田 悠記	（埋蔵文化財担当）
同 学 芸 員	松本 将太	（歴史・民俗担当）
同 学 芸 員	深澤 麻衣	（埋蔵文化財担当）
同 学 芸 員	高橋 菜月	（歴史・民俗担当）
同 嘱 託 員	鈴木 翔太	（埋蔵文化財担当）
同 嘱 託 員	高増 慧	（歴史・民俗担当。6 月 30 日まで）
同 嘱 託 員	川口 優子	（歴史・民俗担当。8 月 1 日から）
社会教育指導員（郷土資料館長）	渡井 一信	

目 次

富士宮市文化財年報第8号の刊行にあたって	1
I 平成29年度の文化財保護事業	
1 概要	4
2 文化財保護事業一年の歩み	5
II 文化財保存・管理事業	
1 文化財保護審議会	7
(1) 文化財保護審議会の開催	
2 文化財指定事業	7
(1) 銅造虚空蔵菩薩像懸仏	
(2) 平野のエドヒガンザクラ	
3 指定文化財保存整備事業	8
(1) 史跡「富士山」整備事業	
(2) 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備事業	
(3) 史跡「大鹿窪遺跡」整備事業	
4 指定文化財管理事業	10
(1) 富士宮市文化財保護補助金の交付	
(2) 指定文化財保護対策事業	
(3) 文化財防火デー	
5 未指定文化財調査事業	12
(1) 盆行事（川供養）調査	
(2) どんど焼き・小正月行事調査	
III 埋蔵文化財事業	
1 市内遺跡発掘調査事業（補助事業）	13
(1) 史跡「大鹿窪遺跡」（総括報告書刊行）	
(2) 史跡富士山（人穴富士講遺跡）発掘調査	
(3) 史跡富士山（村山浅間神社）発掘調査	
2 地域の特徴ある埋蔵文化財活用事業（補助事業）	15
(1) 『図録 富士宮市の遺跡』の刊行	
(2) 埋蔵文化財講演会の実施	
3 開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査	16
(1) 甲石遺跡	
(2) 泉遺跡	
4 富士宮市埋蔵文化財センター	19
(1) 施設概要	

IV	郷土資料館事業	
1	展示	20
	(1) 常設展示	
	(2) 企画展示	
	(3) その他の展示	
	(4) 展示会関連事業	
2	資料収集・保存管理	21
	(1) 資料収集	
	(2) 保存管理	
3	古文書等解説刊行事業	22
	(1) 旧北山村役場文書刊行事業	
V	歩く博物館事業	
1	探索会	23
	(1) 市主催探索会	
2	標柱・説明板整備	23
VI	その他の事業	
1	問合せ対応	24
2	小中学校総合学習への対応	24
3	講師派遣	24
	(1) 富士山まちづくり出前講座	
VII	文化財調査	
1	富士宮市内「火の見櫓」調査	25
	(1) 調査の目的	
	(2) 富士宮市における「火の見櫓」の呼称	
	(3) 富士宮市に現存する「火の見櫓」	
	(4) 富士宮市に現存する「火の見櫓」の分類	
	(5) 富士宮市内において撤去された「火の見櫓」	
	(6) むすびに	
資料 i	「富士講と人穴」展・配布資料	34
資料 ii	「神戸麗山と富士宮」展配布資料	38
資料 iii	第3回歩く博物館探索会配布資料	46
資料 iv	各委員会等委員名簿	47
資料 v	富士宮市内指定文化財等一覧	49
資料 vi	溶岩洞穴「人穴」の入洞予約について	51

富士宮市文化財年報第 8 号の刊行にあたって

文化課長 笠井 秀治

「富士宮市文化財年報」第 8 号の刊行にあたり、富士宮市における文化財行政の動きや富士宮市の文化財をめぐる出来事について、平成 29 年度を振り返ってみます。

1 世界遺産富士山の構成資産整備

世界遺産富士山については、構成資産である文化財の本質的価値を保存し、次世代に継承するとともに、その活用を図るため、平成 24 年 3 月に策定した「『史跡富士山』整備基本計画」、「名勝及び天然記念物『白糸ノ滝』整備基本計画」に沿って、構成資産の整備を行ってきました。平成 29 年度は短期整備計画の最終年度として、文化財の整備を進めてまいりました。

その整備について、平成 29 年度の実施状況を見てみますと、まず、人穴富士講遺跡については、溶岩洞穴「人穴」の公開を目指して、洞穴内の環境整備を行いました。また、碑塔群の一部修復や歩経路の整備など、遺跡が示す歴史を実感しながら、安全に見学できる環境づくりを行いました。なお、整備後の人穴富士講遺跡は、平成 30 年 7 月 30 日から公開を開始しています。

山宮浅間神社については、史跡の保全と来訪者の安全を図るため、籠屋東側の石積みの一部修復を行いました。平成 30 年度も引き続き石積みの修復を行っています。

村山浅間神社については、水垢離場や導水施設の整備を前提とし、水源である龍頭ヶ池跡とそこから水垢離場への導水施設の痕跡を確認するための発掘調査を実施しました。また、静岡県指定天然記念物である大スギとイチョウについて、所有者である村山浅間神社が、静岡県・富士宮市の補助金を受け、支柱の改修等を実施しました。

また、名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」では、売店集約化に向けた周辺物件の調査業務と売店営業補償の調査業務を行い、将来的な公園整備のため、移転に伴う土地の買い上げを行いました。また、売店集約地に向かう歩経路の整備を行いました。

各構成資産の整備については、ユネスコの世界遺産センターに提出された推薦書の付属資料である包括的保存管理計画に記載された整備・公開・活用の促進を具現化するものとして、今後とも取り組んでいくことになります。

2 文化財保護・調査等への継続的取組

世界遺産関係の文化財に注目が集まる近年ですが、歴史豊かな富士宮市には、他にも継続的に保護や調査に取り組むべき多くの文化財があります。

平成 29 年度は、文化財保護事業として国指定特別天然記念物「狩宿の下馬ザクラ」と県指定天然記念物「猪之頭のミツバツツジ」、同じく「西山本門寺の大ヒイラギ」の施肥・消毒を行い、文化財樹木の保護を図りました。また、所有者である富士山本宮浅間大社と協力し、国

指定特別天然記念物「湧玉池」の清掃を実施しました。また、国指定重要文化財「絹本著色富士曼荼羅図」について、所有者である富士山本宮浅間大社が、国・県・市の補助金を受け、修復を実施しています。

埋蔵文化財発掘調査としては、国指定史跡大鹿窪遺跡整備事業として、これまでに実施した発掘調査や出土した遺物の考察を行い、『史跡大鹿窪遺跡発掘調査総括報告書』を刊行しました。

平成 30 年度はこれらの調査結果を踏まえ、最古の段階の定住集落をイメージした史跡公園としての整備を前提に、整備基本計画を策定します。

開発行為に伴う埋蔵文化財の確認については、甲石遺跡、滝戸遺跡、泉遺跡などにおける試掘・確認調査を行いました。

歴史民俗分野では、旧北山村文書の解読を進め、『旧北山村役場文書』を刊行しました。歩く博物館の芝川地区のコースに、標柱・説明版設置を行いました。また、盆行事をはじめとした民俗行事の調査を引き続き行うなど、各分野で重要な成果を上げることができました。

これら各分野での調査研究の成果を公表し、文化財に親しみと理解を深めていただくための取組として、平成 29 年度は、郷土資料館で「富士講と人穴」展や「神戸麗山と富士宮」展、といった企画展示を実施したほか、上稲子地区、黒田・山本地区、白糸地区での歩く博物館探索会を開催するなど、さまざまな形で、文化財についての啓発に努めました。



写真1 「湧玉池」の清掃



写真2 歩く博物館探索会

3 埋蔵文化財センターの現状と今後

平成 26 年に開設した埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の発掘調査及び研究を実施し、出土品及び関連する資料を保存するとともに、資料を活用して富士宮市の歴史に対する理解を深め、市民の教育や、市の学術文化の発展に寄与することを目的としている施設です。

事業内容は、埋蔵文化財の調査・研究・整理及び出土資料の収蔵、埋蔵文化財の展示、体験学習教室や講座などの開催であり、平成 29 年度には、土器などの常設展示のほか、市内の埋蔵文化財に関する図録『富士宮市の遺跡』を刊行し、縄文時代研究の第一人者である小林達雄氏をお招きし、「富士宮市の縄文遺跡」と題した講演会を開催しました。

埋蔵文化財センターとしては、第一に、約半世紀にわたり行われてきた市内の埋蔵文化財の発掘調査による膨大な出土資料を集約・保管し、調査・研究・公開するという機能を果た

すというところがありますが、さらに、埋蔵文化財を核としながら、民俗資料や文献資料も集約し、学芸員が常駐して調査・研究を行い、成果を生かした公開や講座を行うといった、文化財活用の企画を行う拠点としても機能していくという役割を担っています。引き続き、皆さんに親しまれる施設として機能するよう、その充実に努めていきたいと思っています。



写真3 埋蔵文化財センター



写真4 埋蔵文化財資料整理事業

4 むすびに

世界遺産富士山の構成資産整備をはじめ、多種多様にわたる文化財の保護や調査、整備など、待ったなしの課題が山積する当市の文化財行政であります。今後とも、文化財の保護を図りながら、市内の歴史的、文化的資産の一層の掘り起こしに努め、調査研究の成果を市民の皆さんに還元することを使命として、さまざまな事業を実施していきたいと考えています。今後、文化庁は、保存や管理が最優先だった文化財について、積極的な活用を打ち出す方針を固めています。守り伝えた「地方の宝」をどう磨き、訪日外国人客を含めた誘客に結び付けていくか。当市でも主体的な取り組みが求められます。

富士宮市の豊かな歴史を守り伝えていくために、これからも、関係者の皆さんのご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

I 平成 29 年度の文化財保護事業

1 概要

富士宮市における平成 29 年度の文化財保護関連事業の概要は、下記のとおりである。

〈文化財保存・管理事業〉

史跡「富士山」、名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」、史跡「大鹿窪遺跡」の各文化財について、今年度も各整備委員会等の指導を得て調査・整備等の事業を実施した。

史跡「富士山」については、「人穴富士講遺跡」において溶岩洞穴「人穴」の安全対策としてシェルターの設置、来訪者の安全性や快適性の確保のため、碑塔群修復、歩経路整備、展望場整備等工事を行った。

名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」では、景観を阻害する売店通りの既存店舗を移転させるための対象となる土地を買い上げ、指定地内の景観及び環境改善を図るための公園整備、白糸ノ滝左岸上段の歩経路整備を行った。

その他、文化財防火デー（1 月 26 日）における防火運動の実施や、市内指定文化財の保存・管理事業への補助金交付や未指定文化財調査等、文化財保存・管理事業を推進した。

〈埋蔵文化財事業〉

平成 13 年度から平成 28 年度までの史跡「大鹿窪遺跡」における発掘調査成果をまとめた発掘調査総括報告書を刊行した。国・県の補助金を受けて、史跡「富士山」の人穴富士講遺跡・村山浅間神社の発掘調査を実施した。

開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査を 18 件実施した。

埋蔵文化財センター事業として、縄文時代研究の第一人者である小林達雄氏（國學院大学名誉教授・縄文文化発信サポーターズ会長）を講師として招いた埋蔵文化財講演会「富士宮市の縄文遺跡」を開催した。また、富士宮市内の遺跡を紹介する冊子として、図録『富士宮市の遺跡』を刊行した。

〈郷土資料館事業〉

郷土資料館において、常設展のほか、「富士講と人穴」展、「神戸麗山と富士宮」展の計 2 回の企画展を開催し、あわせて関連事業を開催した。

資料収集・保存管理事業として、民俗資料等の収集や収蔵品くん蒸を実施し、古文書等解読刊行事業として、旧北山村役場文書の解読作業を行い、『旧北山村役場文書』を刊行した。

〈歩く博物館事業〉

歩く博物館探索会を 3 回実施した。1 回目は上稲子地区で実施し「山ノ神社」、「上稲子八幡宮」などを探索した。2 回目は黒田・山本地区で実施し「黒田用水」、「山本勘助誕生地」の碑」などを探索した。3 回目は白糸地区で実施し「内野神社」、「火伏念仏」などを探索した。

芝川地区の3コースについて、標柱や説明板を設置した。

〈その他の事業〉

市内の歴史・民俗等に関する問合せに対応したほか、小中学校の総合学習（富士山学習）への対応や、富士山まちづくり出前講座等の講師を務めた。

2 文化財保護事業一年の歩み

〈平成 29 年〉

- 4月13日 福伝遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 4月26日 第1回文化財保護審議会開催。
- 5月9日 若宮遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 5月18日 「銅造虚空蔵菩薩像懸仏」「平野のエドヒガンザクラ」市指定文化財に指定。
- 5月24日 第1回歩く博物館探索会（上稲子地区）開催。
- 5月30日 内久子遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 6月7日 峯石遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 6月19日 史跡富士山（人穴富士講遺跡）発掘調査実施（6月22日まで）。
- 7月8日 郷土資料館「富士講と人穴」展開催（11月19日まで）。展示解説実施。
- 7月10日 東田遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 7月18日 甲石遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 7月24日 史跡富士山（村山浅間神社遺跡）発掘調査実施（8月10日まで）。
- 8月15日 盆行事（川供養）調査実施（富士川・芝川流域。8月16日まで）。
- 8月17日 福伝遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 9月9日 郷土資料館「富士講と人穴」展関連講座実施。
- 9月13日 大室遺跡・権現遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 9月15日 郷土資料館展示物等くん蒸事業実施（9月17日まで）。
- 10月11日 第2回文化財保護審議会開催。
- 10月21日 郷土資料館「富士講と人穴」展展示解説実施。
- 10月26日 大宮城跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 10月31日 第2回歩く博物館探索会（黒田・山本地区）開催。
- 11月9日 滝戸遺跡埋蔵文化財確認調査実施（11月10日まで）。
- 11月18日 郷土資料館「富士講と人穴」展関連講演会実施。
- 11月21日 月の輪上遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 12月4日 第1回史跡富士山整備委員会開催。
- 12月6日 小泉中村遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 12月9日 郷土資料館「神戸麗山と富士宮」展開催（平成30年3月25日まで）。
- 12月14日 泉遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 12月21日 中ノ土手遺跡埋蔵文化財確認調査実施。

〈平成 30 年〉

- 1 月 13 日 どんど焼き・小正月行事調査実施（市内各所。1 月 14 日まで）。
- 1 月 20 日 郷土資料館「神戸麗山と富士宮」展展示解説実施。
- 1 月 26 日 文化財防火デー。
- 2 月 13 日 大宮城跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 2 月 19 日 石敷遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 2 月 24 日 埋蔵文化財講演会「富士宮市の縄文遺跡」開催。
- 3 月 9 日 史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会開催。
- 3 月 12 日 第 2 回史跡富士山整備委員会開催。
- 3 月 14 日 第 3 回歩く博物館探索会（白糸地区）開催。
- 3 月 14 日 第 3 回文化財保護審議会開催。
- 3 月 15 日 甲石遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 3 月 20 日 指定文化財保護対策事業完了（狩宿の下馬ザクラ、猪之頭のミツバツツジ、西山本門寺の大ヒイラギ）。
- 3 月 27 日 『図録 富士宮市の遺跡』刊行。
- 3 月 30 日 『旧北山村役場文書』刊行。

Ⅱ 文化財保存・管理事業

1 文化財保護審議会

(1) 文化財保護審議会の開催

第1回 開催日：平成29年4月26日（水）

内 容：「銅造虚空蔵菩薩像懸仏」及び「平野のエドヒガンザクラ」の市指定文化財指定についての答申。平成29年度事業の概要について報告。

第2回 開催日：平成29年10月11日（水）

内 容：市指定文化財の指定状況・候補物件について審議。指定文化財の案内看板の現況報告。

第3回 開催日：平成30年3月14日（水）

内 容：市指定文化財の候補物件「三島ヶ嶽経塚出土経巻」・「紙本淡彩富士曼荼羅図」・「角田桜岳日記」の内容・現況確認、今後の保存方法について検討。延命寺所有「弥陀観音勢至の軸」補修事業の結果報告。

2 文化財指定事業

平成29年4月26日に富士宮市文化財保護審議会が開催され、「銅造虚空像菩薩像懸仏」、「平野のエドヒガンザクラ」の文化財指定について指定は適当であると市教育委員会に答申された。これを受け、市教育委員会は平成29年5月18日付けで市指定文化財に指定した。これにより市指定文化財は37件となった。

(1) 銅造虚空蔵菩薩像懸仏

種 別 市指定・有形文化財（考古資料）

指定日 平成29年5月18日

所有者 富士山本宮浅間大社

所在地 富士宮市宮町1番1号

説 明 所有者は富士山本宮浅間大社であり、その受納については同社『宝物綴』（自昭和五十八年一月 至昭和六十年十二月 永久保存）に詳細な記録が残る。一部に緑青がみられる程度で保存状態は極めて良好。尊像、天蓋、蓮華座、獅嚙形吊環等の形状・作りともこの時期としては堅実である。

紀年銘「文明14年（1482）壬寅六月日」のほか、銘文には制作・奉納者名「木佐良津郷大工同旦那和泉守光吉」と「八躰内」が認められる。前者は在地系の菅生庄矢那郷の上総鋳物師集団の分派が木佐良津郷に移ったとされる。後者は密教による「胎蔵界中台八葉院」による本地垂迹説に基づく富士山信仰の遺物として注目される。吉田口烏帽子岩付近で発見された「銅製不動明王像懸仏」（山梨県指定文化財）にも同様の銘があり、富士山信仰に関わる歴史的価値が高いものである。

(2) 平野のエドヒガンザクラ

種 別 市指定・天然記念物

指定日 平成 29 年 5 月 18 日

所有者 上羽鮎区平野町内会

所在地 富士宮市羽鮎 1089 番地

説 明 富士山麓で最大級のエドヒガンである。エドヒガンは桜類のうちでもっとも寿命が長く、他のサクラ類と比較して長年にわたり主幹が保たれ成長する種類である。「平野のエドヒガンザクラ」は富士山城の桜のなかで最大級の樹冠を持った桜で、文化財として指定し保全するのが適当で、桜に縁のある富士宮市を象徴する桜としてふさわしい巨樹である。



写真 5 銅造虚空蔵菩薩像懸仏



写真 6 平野のエドヒガンザクラ

3 指定文化財整備事業

(1) 史跡「富士山」整備事業

史跡「富士山」（平成 23 年 2 月 7 日指定）について、史跡富士山整備委員会の指導を受けながら、史跡整備事業を実施した。また、便益施設及び史跡内の管理（草刈り等）については地元の地域団体等に委託して実施した。

ア 史跡富士山整備委員会の開催

第 1 回 開催日：平成 29 年 12 月 4 日（月）

内 容：平成 29 年度の調査の報告・説明、及び平成 30 年度の調査・整備事業計画の説明（人穴富士講遺跡の調査・整備、村山浅間神社調査）。事業計画の検討。

第 2 回 開催日：平成 30 年 3 月 12 日（月）

内 容：富士山世界遺産センター視察。人穴富士講遺跡現地にて碑塔の修復・人穴内部のシェルターの施工などの整備工事状況の解説。平成 30 年度の史跡富士山調査・整備事業計画の説明（『史跡富士山整備報告書』の刊行、人穴富士講遺跡の調査・整備、村山浅間神社の調査、富士山本宮浅間大社の整備基本計画策定）。

イ 各構成資産の調査・整備

(ア) 人穴富士講遺跡整備事業

人穴富士講遺跡にある富士講の開祖長谷川角行が修行したとされる溶岩洞穴「人穴」のシェルター設置工事、碑塔群修復等工事を行った。

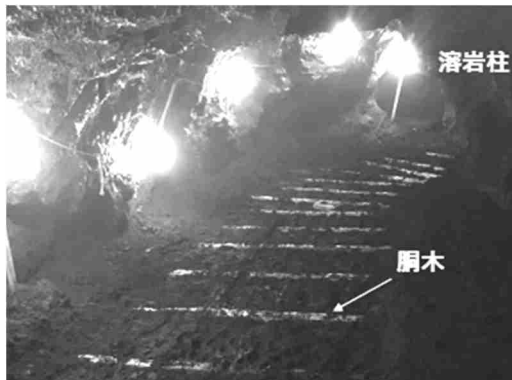


写真7 シェルター設置
(平成30年6月完成)



写真8 碑塔修復

(2) 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備事業

世界遺産富士山の構成資産となった名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」の整備を整備基本計画に基づいて実施した。整備に際しては、文化庁の指導のもと、学識経験者から成る整備委員会で整備内容の協議を重ねて進めた。

名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」では、景観を阻害する売店通りの既存店舗を移転させるため、対象となる土地を買い上げ、指定地内の景観及び環境改善を図るために、公園整備、白糸ノ滝左岸上段の歩経路整備を行った。

また、便益施設及び指定地内の管理（草刈り等）については、地元の業者に委託して実施した。



写真9 白糸ノ滝公園整備



写真10 歩経路整備

(3) 史跡「大鹿窪遺跡」整備事業

史跡「大鹿窪遺跡」（平成20年3月28日指定）について、適正な保全・公開・活用を検討するため、史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会を開催した。また、史跡管理のた

め、指定地（約 6,600 m²）の草刈を地元区に委託して実施した。

ア 史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会の開催

開催日：平成 30 年 3 月 9 日（金）

内 容：『史跡大鹿窪遺跡発掘調査総括報告書』について。平成 30 年度の整備事業について。

4 指定文化財保存管理事業

（１） 富士宮市文化財保護補助金の交付

「富士宮市文化財保護補助金交付要綱」に基づき、以下の通り市内指定文化財の管理・保存・活用事業に対して補助金の交付を行った。

ア 「絹本著色富士曼荼羅図」保存活用事業

補助事業者：富士山本宮浅間大社

事業内容：国指定重要文化財「絹本著色富士曼荼羅図」の修理事業を行った。

イ 富士山本宮浅間神社本殿指定文化財管理事業

補助事業者：富士山本宮浅間大社

事業内容：国指定重要文化財「富士山本宮浅間神社本殿」の自動火災報知設備・消火設備（加圧式動力消防ポンプ）・避雷針の保守点検等の文化財管理事業を実施した。

ウ 富士山本宮浅間大社社殿指定文化財管理事業

補助事業者：富士山本宮浅間大社

事業内容：県指定有形文化財「富士山本宮浅間大社社殿」の自動火災報知設備・消火設備（加圧式動力消防ポンプ）・避雷針の保守点検、放水銃ポンプ発電機修理等の文化財管理事業を実施した。

エ 「村山浅間神社の大スギ」「村山浅間神社のイチョウ」保存活用事業

補助事業者：村山浅間神社

事業内容：県指定天然記念物「村山浅間神社の大スギ」の支柱改修、「村山浅間神社のイチョウ」の支柱塗装・侵入防止柵基礎撤去等を行った。

オ 「北山本門寺のスギ」保存活用事業

補助事業者：宗教法人本門寺（北山本門寺）

事業内容：県指定天然記念物「北山本門寺のスギ」の侵入防止柵設置、ウロ補修、説明看板設置を行った。

カ 「精進川の大カシワ」保存活用事業

補助事業者：所有者（個人）

事業内容：県指定天然記念物「精進川の大カシワ」の説明看板設置を行った。

キ 村山浅間神社大日堂大日如来坐像等保存活用事業

補助事業者：村山浅間神社

事業内容：市指定文化財「大日如来坐像（胎蔵界）」他 5 点の市指定文化財について、防カビ・防虫のための燻蒸を行った。

ク 「弥陀観音勢至の軸」修理事業

補助事業者：延命寺

事業内容：市指定文化財「弥陀観音勢至の軸」の修理事業を行った。

（２） 指定文化財保護対策事業

国指定特別天然記念物「狩宿の下馬ザクラ」、静岡県指定天然記念物「猪之頭のミツバツツジ」、同「西山本門寺の大ヒイラギ」の樹勢保持のため、平成 30 年 3 月に施肥・消毒等を実施した。



写真 11 猪之頭のミツバツツジ（消毒）

（３） 文化財防火デー

文化財防火デーは、国民全体の重要な宝である文化財を火災や震災などの災害から守るために昭和 30 年に定められたもので、毎年 1 月 26 日を中心に全国で文化財防火運動が実施されている。

市内では、富士山本宮浅間大社と大石寺で防火訓練が実施された。また、消防本部による消防設備の点検や、東京電力パワーグリッド（株）富士支社の協力による指定文化財建造物の漏電検査を行った。



写真 12 防火訓練（富士山本宮浅間大社）



写真 13 漏電検査（富士山本宮浅間大社）

5 未指定文化財調査事業

市内で行われる種々の民俗行事について、実施状況や周辺地域との比較調査を行った。

表1 平成29年度調査一覧

	名 称	月 日	場 所
1	火の見櫓調査		市内各所
2	盆行事（川供養）	8月15日～16日	富士川、芝川流域集落
3	どんど焼き・小正月行事	1月13日～14日	市内各所

（1） 盆行事（川供養）調査

日 時：平成29年8月15日（火）～16日（水）

場 所：市内各所（富士川・芝川流域集落）

調査者：文化課学芸員4名

内 容：富士川・芝川流域ではカワガンジイ・ナゲタイマツ・ヒャクハツタイなど、特徴的な盆行事が行われており、引き続き調査を行った。



写真14 オヤブネを流す（橋場）



写真15 施餓鬼供養（仲）

（2） どんど焼き・小正月行事調査

日 時：平成30年1月13日（土）～14日（日）

場 所：市内各所

調査者：文化課学芸員4名

内 容：どんど焼きは、門松や正月飾りを焼く年中行事として、道祖神祭りとして広く市内で行われている。今年度も例年に引き続き、市内において、どんど焼きの調査を実施した。



写真16 ヤマの製作（山本）



写真17 2つのヤマ（猪之頭）

Ⅲ 埋蔵文化財事業

1 市内遺跡発掘調査事業（補助事業）

国・県の補助金を受け、埋蔵文化財の発掘調査（資料整理）を以下のとおり実施した。

（１） 史跡「大鹿窪遺跡」（総括報告書刊行）

史跡「大鹿窪遺跡」の資料整理およびこれまでの発掘調査の成果をまとめた総括報告書の刊行を行った。

《遺跡の概要》

大鹿窪遺跡は、西山本門寺北西約 2km の芝川東岸の微高地に位置する縄文時代草創期～早期の集落遺跡である。県営中山間地域総合整備事業の圃場(ほじょう)整備に伴い、平成 13 年度に芝川町教育委員会によって調査が行われた結果、国内で数少ない縄文時代草創期の集落遺跡が確認され、その重要性から、平成 20 年に国指定史跡となった。

過去の発掘調査によって、この時期では国内最多の 15 基の住居跡が確認され、土器・石器が 26,000 点余り出土している。



写真 18 史跡大鹿窪遺跡総括報告書

《主な遺構・遺物》

縄文時代草創期 遺構：竪穴住居
遺物：土器・石器

（２） 史跡富士山（人穴富士講遺跡）発掘調査

所在地：富士宮市人穴 206 番地

期 間：平成 29 年 6 月 19 日～6 月 22 日

面 積：実掘面積約 10 m²（2 m×5 m）

目 的：史跡富士山（人穴富士講遺跡）整備に伴う発掘調査



図 1 トレンチ平面図

《遺跡の概要》

人穴富士講遺跡は富士山頂よりほぼ真西約 12 km、富士山本宮浅間大社から北側約 20 km の地点に位置している。富士山の溶岩流により形成された洞穴人穴と富士講の人々により造立された 200 基を超える碑塔群から構成される史跡である。

《主な遺構・遺物》

近世・近現代 遺構：柱穴

遺物：陶磁器

《調査の成果》

境内の階段入口西側にトレンチを1箇所設定し調査を行った。トレンチ南東隅より江戸時代の絵図面に描かれたと考えられる鳥居の痕跡とみられる柱穴が検出された。鳥居の柱は、柱穴を掘り、根石を敷き、その上に柱を置き、周りを栗石等で根固めを行い、埋土をして据えている。遺物は、トレンチ表土から明治時代の陶磁器、3層から江戸時代の陶磁器が出土した。



写真 19 遺構検出状況

(3) 史跡富士山（村山浅間神社）発掘調査

所在地：富士宮市村山 1152-2

期 間：平成 29 年 7 月 24 日～8 月 10 日

面 積：実掘面積約 43 m²（1 m×10 m×4 箇所、1 m×3 m×1 箇所）

目 的：史跡富士山（村山浅間神社）整備に伴う発掘調査

《遺跡の概要》

富士山西南麓の標高約 500m の平坦な地点で、村山浅間神社やその周辺の村山集落を含んだ範囲が遺跡となっている。平安時代末頃に富士山登頂を数回果たした末代上人が、村山に興法寺を開いたとされ、これが神社の起源と考えられている。

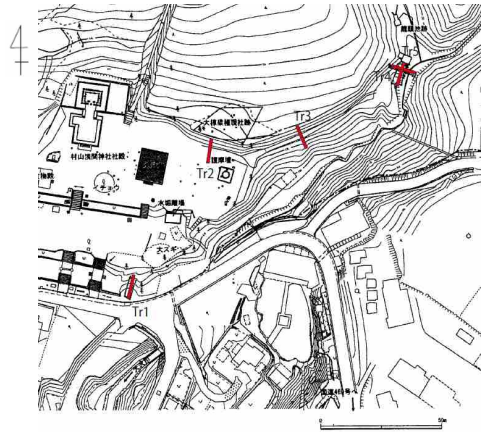


図 2 トレンチ配置図

《主な遺構・遺物》

中世・近世 遺構：溝・柱穴

遺物：土器・陶磁器

《調査の成果》

境内地に2箇所、境内から龍頭ヶ池への道中に1箇所、龍頭ヶ池に2箇所のトレンチ、合計5本のトレンチを設定し調査を行った。

トレンチ1では、北側上部は埋土が基盤層へ堆積し、下部は自然の堆積層であった。



写真 20 トレンチ 2 完掘状況

トレンチ2では、南側から柱穴が2箇所、北側で東西に走る溝が検出された。トレンチ3では、北側は過去の水道工事によって削平されており、南側では褐色土を固めた硬化面が検出された。トレンチ4・5は、周縁部は標準堆積が確認できるが、中央部は掘り込まれ、土を埋めている。

2 地域の特色ある埋蔵文化財活用事業（補助事業）

国・県の補助金を受け、市内埋蔵文化財に関する図録の作成及び講演会を以下のとおり実施した。

（1）『図録 富士宮市の遺跡』の刊行

富士宮市内の埋蔵文化財について、市民への周知のために、富士宮市内に所在する遺跡の発掘調査成果や富士宮市内から出土した遺物の紹介をする一般向けの図録を作成し、市民への配布をおこなった。



写真 21 図録 富士宮市の遺跡

（2）埋蔵文化財講演会の実施

富士宮市の遺跡に関する埋蔵文化財講演会を縄文時代研究の第一人者である小林達雄（こばやし たけお）國學院大学名誉教授を招いておこなった。

日 時：平成30年2月24日（土）14:00～15:30

場 所：富士宮市民文化会館 小ホール



写真 22 埋蔵文化財講演会

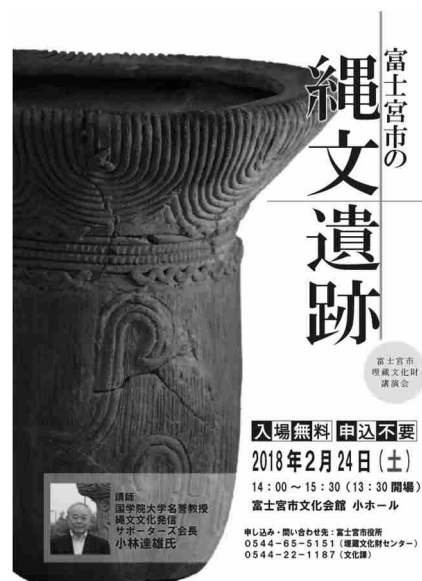


写真 23 埋蔵文化財講演会ポスター

3 開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査

表2 開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	時代	主な遺構	主な遺物
1	福伝遺跡	大中里 1027 番地 1	H29. 4. 13	7. 5 m ²	縄文（後）・弥生・古墳	なし	なし
2	若宮遺跡	小泉 2343 番 128	H29. 5. 9	3 m ²	縄文（早）・弥生	なし	なし
3	内久子遺跡	黒田 125 番 1 ほか	H29. 5. 30	22. 5 m ²	弥生～古墳	なし	なし
4	峯石遺跡	大岩 895-1 ほか	H29. 6. 7	6 m ²	縄文（前～後）・古墳・奈良	なし	なし
5	東田遺跡	中里東町 369	H29. 7. 10	1. 75 m ²	弥生・古墳	なし	なし
6	甲石遺跡	大中里 876 番の内	H29. 7. 18	9 m ²	縄文（中・後）・古墳	なし	縄文土器 弥生土器
7	福伝遺跡	大中里 838 番 4 ほか	H29. 8. 17	10 m ²	縄文（後）・弥生・古墳	なし	なし
8	大室遺跡	小泉 1454 番ほか	H29. 9. 13	6 m ²	なし	なし	なし
9	権現遺跡	小泉 294-23	H29. 9. 13	1. 5 m ²	縄文（前・中）・古墳（前）・奈良	なし	なし
10	大宮城跡	元城町 1318 番 3	H29. 10. 26	4. 5 m ²	古墳・奈良・平安・中世・近世	なし	なし
11	滝戸遺跡	野中 620-1 他	H29. 11. 9 ～11. 10	9. 5 m ²	縄文（中・後）・弥生・古墳	なし	なし
12	月の輪上遺跡	星山月の輪 990-9	H29. 11. 21	2 m ²	縄文・弥生・古墳・中世・近世	なし	なし
13	小泉中村遺跡	小泉 1832-1 ほか	H29. 12. 6	4. 5 m ²	縄文（後）・古墳（前）	なし	なし
14	泉遺跡	泉町 728 番	H29. 12. 14	1 m ²	縄文（後）・弥生（後）・古墳・平安・近世	なし	弥生土器
15	中ノ土手遺跡	小泉 2126-9・-10・-4	H29. 12. 21	10 m ²	縄文（前）・古墳（前）	なし	なし

16	大宮城跡	中央町 1086-1 ほか	H30. 2. 13	4. 5 m ²	なし	なし	なし
17	石敷遺跡	小泉 696-1 ほか	H30. 2. 19	13. 25 m ²	縄文・弥生・古墳 (前)・奈良・ 中世	なし	なし
18	甲石遺跡	大中里 886 ほか	H30. 3. 15	6 m ²	なし	なし	なし

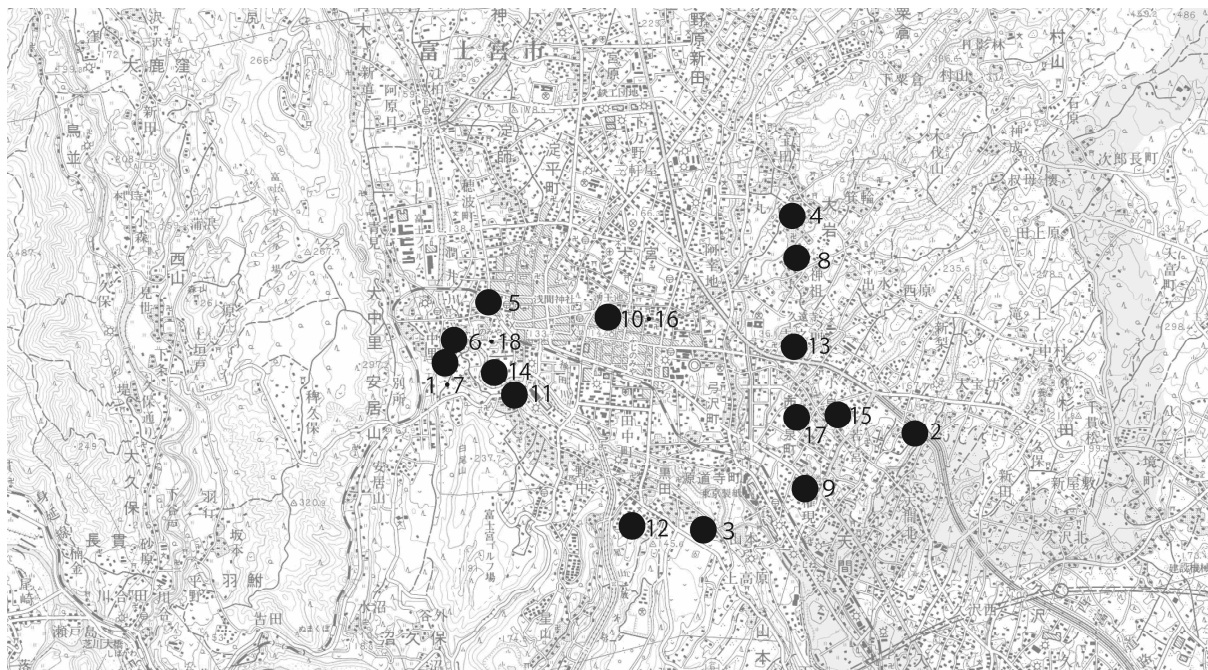


図 3 確認調査実施箇所位置図 (S=1/25, 000)

(1) 甲石遺跡

《遺跡の概要》

清水川南側の緩斜面に位置する縄文時代（中期・後期）、古墳時代の遺跡である。包蔵地内では地表面に遺物が散布していることが確認されている。

《調査の概要》

集合住宅の建設に伴う事前の確認調査で、トレンチ 2 本を設定して掘削を行った。

《主な遺構・遺物》

遺構：なし 遺物：縄文土器・弥生土器

《調査の成果》

対象地は遺跡の北東端に位置する。トレンチを 2 箇所設定し調査を行った。田の床土の下は河川氾濫の堆積層や、黒褐色土と褐色土の混じり層であり、標準的な包含層の堆積ではない。トレンチ 1 では混じり層から縄文土器が出土しており、トレンチ 2 では混

じり層と褐色土層から縄文土器が出土した。

包含層は褐色土層であり、混じり層から出土した土器に関しては河川の氾濫によって流れ込んだものと考えられる。



写真 24 トレンチ 2 完掘状況



写真 25 トレンチ 2 出土遺物

(2) 泉遺跡

《遺跡の概要》

潤井川北側が滝戸溪谷で東に大きく迂回する内側の微高地に位置する縄文時代（後期）、弥生時代（後期）、古墳時代、平安時代、近世の遺跡である。過去の調査によって、弥生時代後期の竪穴住居や古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴住居が重なって見つかっている。

《調査の概要》

個人住宅建替に伴う事前の確認調査で、トレンチ 1 本を設定して掘削を行った。

《主な遺構・遺物》

遺構：なし 遺物：弥生土器

《調査の成果》

対象地は遺跡の南部中央に位置する。トレンチを 1 箇所設定し調査を行った。地表下約 45cm までは耕作土で、その下はスコリアまじり黒色土で遺構・遺物は確認されなかった。さらに下の地表下約 80cm からは弥生後期～古墳時代の黒褐色土の包含層が確認され、弥生時代後期～古墳時代の遺物が 3 点出土した。



写真 26 トレンチ 1 遺物出土状況

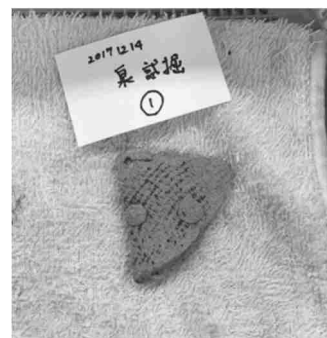


写真 27 トレンチ 1 出土遺物

4 富士宮市埋蔵文化財センター

発掘調査で出土した遺物を収蔵保管し、整理作業を行っている。また、展示室では市内の遺跡・史跡の展示をしている。

(1) 施設概要

所在地：富士宮市長貫 747-1

電話番号：0544-65-5151

FAX番号：0544-65-2933

駐車場：50 台

開館日：平日（祝日・年末年始休館、土・
日曜日は団体のみ（要事前連絡））

開館時間：9:00～17:00

見学料：無料

展示内容：旧石器時代から中世・近世の各
時代出土資料、市内主要遺跡の紹
介、史跡富士山関連遺跡発掘調査
出土資料



写真 28 展示室